

創立 70 周年を祝してのご挨拶

木々を彩る紅葉がさらに深まりを見せ、日本の自然の美しさを見事に表現しています。府立第 21 中学校として誕生した本校が、この秋の佳き日に、創立 70 周年の記念式典を挙行できますことは無上の喜びです。ご多忙の折にもかかわらず、ご来駕の栄をたまわりました、中野区議会議員、大内しんご様、日本一賞を受賞される皆様、設置者代表の中部学校経営支援センター支所、押尾勲課長をはじめ多くのご来賓の皆様に、心からの感謝を捧げさせていただきます。

さて、武蔵丘高校にとって創立七十周年は単なる通過点ではありません。これまでの学校教育の在り方を根っこから問い直し、武蔵丘高校の、学校教育の再構築への出発点にしたいと考え、重大な決意をもって臨むものです。

「武蔵丘には特色がない」との声が生徒からも聞かれる中で、特色の「芽」となりうる取組を紡ぎだし、「学力向上開拓推進校」と「部活動推進指定校」とに、二百校近い都立高校の中で三校だけという同時指定を受け、その喜びを分かち合ったのは、この三月の卒業式・修了式でのことでした。

加えてこの 11 月 11 日には、東京都が特別の応援する「重点支援校」に来年度から三年間の指定を受けるという、飛びきりうれしい報告に心湧きたちました。

「飛びきりのうれしさ」には訳があります。それは、重点支援校に選ばれるには、改革のビジョンが明確で、先生方が団結し、生徒たちが一所懸命に取り組んでいることが指定の条件になっていて、学校現場の確認を含む厳しい審査があるからです。重点支援校の指定は、武蔵丘高校の生徒と先生方、それを支える武蔵丘同窓会と武陵会の皆様の力が総合的に高く評価されて授与された「輝かしい勲章」です。

生徒諸君の穏やかな気風、そこに心と身体のたくましさが確実に増していることを私は最近とみに実感しています。「友とのきずな」「利他の志」を育みながら、より深い学びを真剣に追い求める君たちを、私は校長として心から誇りに思います。

さらに 15 日には、「土曜授業実施校」の決定通知が届き、とても重く受け止めました。生徒会が行った土曜授業のアンケート調査では、賛成の生徒は一年生で 1.4%、二年生で 3.2%、反対は一年生で 72.9%、二年生で 52.5%でした。

ご来賓の皆さん、決して誤解なさないでください。これは、私たちを責めようという調査ではありません。私は執行部に、心からよくぞやったと誉めました。生徒の中にモヤモヤした気持ちがある、それを集めて伝えたいという彼らの思いは、武蔵丘高校が掲げる「利他の志」にも通じるものです。また、反対の声が強いことが当然であることもご理解ください。私たちの世代は、土曜授業は当たり前でしたが、生徒たちの習慣は九年目に入っています。それを変える。しかも入学時にはなかった新しい取組が始まることに、抵抗感や戸惑いを感じるのは無理のないことです。

主幹や主任の先生方を核にして教育課程検討委員会を設け、本格的な検討を始めたのはこの4月のことでした。武蔵丘に学ぶ生徒の特性を分析したり、地方の高校のことを調べ、どうしたらみんなの学力をもっと伸ばし、受験力を磨いて進路の実現に近づけるのか、休み返上で徹底した検討が続きました。英語と国語の時間数を標準よりも一時間でも増やせば、力は伸びる。三年の選択も時間枠が増えれば、今まで取れなかった科目も選択できる。でも、それを学校週五日制の中でやると7時間授業が週3日になってしまう。袋小路に入るかもしれなかったこの検討にとって、どの都立高校にも土曜授業の門が開かれたのは、天の恵みでした。

それを受けて、私たちはカリキュラムを変更し、一週おきに土曜授業を行うという決断をしました。これだけ強い生徒の思いを受けながら、武蔵丘高校は隔週土曜授業に踏み切る。それが、万が一、生徒諸君にとってプラスにならなかったとしたら、そして、これからの武蔵丘高校にとってプラスにならなかったとしたら、私は校長の職を辞することとします。制度や仕組みを生かすも殺すも「人」、人です。後ろ向きにやったら、どんな素晴らしい制度でも稔りは生まれません。先生方もどうしたら、より効果が出るか、全体がうまくいくか、具体的に検討しています。生徒諸君一人ひとりも全力で智恵と工夫を凝らしてくれるよう、校長として切に期待するものです。よろしく頼みます。

さて、「重点支援校」での武蔵丘高校の教育ビジョンをまだ生徒諸君には詳細に伝えられていません。そこで、70周年の記念誌にその概要を書きました。ここでは全てはお話できません。後でぜひ読んでください。

私たちが掲げたビジョンは、富士山のように裾野が広く、バランスの取れた多様な資質能力を育む「全人教育」を推し進め、その礎の上に、生徒の学力を存分に伸ばせる、隔週土曜授業も含めた教育課程を編成・実施し、予備校に頼ることなく国公立やMARCHレベル以上の大学に合格できる「中堅上位の進学校」を創りあげようというものです。

若者がどのように鍛えられ、どう育つのか。それには大きく分けて三つの方式があります。今日配布されている記念誌の8ページを開けてください。図3の左をご覧ください。

一つ目は「エッフェル塔方式」です。これは、小さい頃からたった一つのことだけに力を集中し、特定の専門分野だけの力を伸ばそうというやり方です。例えば、バイオリニストを育てるために、幼い頃からそれだけに力を注がせる。余計なことをしないから一見効率がよく、限られた力で、とても細いけどエッフェル塔のように、今だったらスカイツリーのように高さを出すことができる。この方式が、芸術や科学技術などの発展に貢献したことは事実です。しかしその弊害も深刻です。限られた専門分野にはとても都合がよいのですが、他の目的には応用ができません。そのため、力が衰えたり失われたりすると、また時代や社会が変わって需要が減ると、「人材のスクラップ化」が進まざるを得ないのです。この方式が、本当に人々の幸せにつながるのでしょうか。心おきなく、我が身を、生徒たちの身を委ねることができるのでしょうか。

二つ目は、「ピラミッド方式」です。これは、まず広く土台を固めます。その上に少しずつ面積を小さくしながら積み上げていくやり方です。底の面積が広いほど、高さを出せません。日本では元々この人材育成が一般的でとても上手でした。例えば、能楽、お能の世界における主役のシテ方を演じるには、謡や大鼓、小鼓、相棒のワキ方など、全部ができるようになってからのことです。このやり方の安定度は抜群です。各界で活躍されている方々の中には、こうした広い土台の上に業績をあげている方が少なくありません。本日の日本一賞も、こうした観点を踏まえて選ばせていただきました。

さて、こうした気風が、伝統として世の中に生きているうちは、たとえエッフェル塔方式の教育が広がっても、その弊害は中和され、薄められてきました。その伝統を体験した人々が少しでも残っているうちに、人にとって安定した人類の本来に近いピラミッド方式の教育を、再び創りあげることは、緊急性の高い課題です。

武蔵丘高校はその先頭に立ち、たった一つのことだけに光を当てるのではなく、人が本来もっているいろんな活性をすべてひきだし、真善美を追求する豊かな感性を育て、富士山のように人としてバランスのとれた全方位型の活力を育む「全人教育」の道を追い求めていきます。

具体的には、どの教科・科目も、部活も、行事も進路の学習もおろそかにはできません。選択授業にしても、好きか嫌いだけで判断するのは乱暴すぎます。各教科・科目の中には、過去から受け継ぐべき智恵や経験が凝縮されています。学びは毎日のご飯と同じです。好き嫌いなく、とくに食べず嫌いをせずに、食卓に並んだものを毎日欠かさずに食べることが、丈夫で健康な体をつくっていくのです。

高校時代、化学のモルが分からず、物理の電池の直列並列でつまづき、今になって後悔し、理科系の勉強を五六歳の手習いで始めている私の苦い教訓をぜひ活かしてください。

ピラミッド方式の上をゆく三つ目が、「火山列島方式」です。8ページ右の図を見てください。一つ一つの山、これはピラミッドに置き換えて話してもいいわけですが、それらが地下のマグマでしっかりつながり、互いに刺激し支えあいながら、一人では達成できない全方位型のさらに高い活力を実現する。本校が、「友との絆」を大切に掲げるのは、君たちが、卒業後も火山列島のように地下でつながり、より豊かで大きな稔りを結んで欲しいと願うからに他なりません。武蔵丘同窓会に結集する多くの皆さんが、その良きお手本です。

ところで、私たちの脳の中には、アメとムチの両方の回路があって、私たちの心や体をコントロールしています。こっちは水は甘いぞと、気持ちよさや喜びなどが行動を導くのが脳の報酬系、これがアメです。一方、あっちの水は苦いぞという、不利益や罰などによって行動を抑えるのが脳の懲罰系、これがムチです。学ぶことは、本来、楽しいことであり、喜びに満ちた行為で、脳の報酬系、つまりアメが働いて、「もっと学ぼう」と私たちをリードしてきたはずです。しかし学びが、脳の懲罰系、ムチに背中を叩かれて仕方なくやらされている、そういう面が強くなっているように思えてなりません。

脳の報酬系に導かれた学びには、学びを美味しく料理する教師の手腕が決定的です。大嫌いなニンジンだって料理の仕方によっては大好きになれる。本校の先生方が、全員参加でつくっている「いい授業創造プロジェクト」の存在意義は、ますます大きい。ご来賓の皆様にお配りした「恋文、そして挑戦状」はこのプロジェクトの成果です。これは、教科の面白さを生徒に知って欲しいという熱烈な恋文であり、もっと頑張れ勉強しようと呼びかけを込めた挑戦状でもあります。ぜひご一読いただければ幸いです。

生徒の学びへの姿勢はもっと大事です。美味しく創られた料理をより美味しく食べるには、予備知識を仕入れておくのは絶対に必要です。予備知識があるから期待感も高まり、より美味しく食べられ、学んだことの吸収も良くなって栄養にもなっていく。仲間たちといろいろ楽しく吟味しながら食べるのもいい。何度でも噛みしめて反復練習にたっぷり時間をとることで「やった！できた！」という達成感も高まります。さらに、あれこれと試行錯誤することが、消化する能力、考える力を鍛えていくんです。本校が、学校五日制の窮屈な枠を外れて、授業時間数を増やした理由もそこにあります。

高校生がもつ、瑞々しい感性をさらに研ぎ澄まし、なぜだ、どうしてだという知的好奇心をかきたて、頭も体も柔らかい掛け替えのない高校時代に、緻密な計画を立てて毎日を誠実に生きながら、進路の夢を膨らまし、その実現に向けていろんな分野にまたがる多彩な学びを重ねてください。

ご来賓の皆様、今、わが校は、全方位型の活性をみかく教育の理想を高くかかげて新たな旅に出で立ちます。上鷲宮に集う若人たちのたゆまぬ精進と、それを支え励まし導く教職員に熱いご支援をひきつづきたまわれますよう、よろしく願い申し上げます。

結びに、生徒諸君、そして教職員の皆さん、我々は理想の教育と、より充実した学びとを進めるために、さらにさらに団結しなければならない。そしてともに前進しようではありませんか。

以上をもって、創立七十周年を祝う式辞といたします。

平成22年11月20日

東京都立武蔵丘高等学校長 谷島 昭